

きずな

Vol.
34

基本理念

「信頼」と「貢献」

思いやりを持った医療を行い、皆様から信頼される病院を目指すことで地域社会に貢献することを基本理念といたします。

基本方針

◎患者中心の医療

患者様の権利を尊重し、患者様の視点に立った、患者様に優しい病院となるように努めます。

◎自治体病院としての役割

地域の中核病院として地域医療の確保と地域医療水準の向上を図り、質の高い医療の提供に努めます。

◎病院機能の充実・強化

医療設備の充実や療養環境などの改善により、病院機能の充実・強化を図り、適切な医療サービスの提供に努めます。

◎地域連携

地域の医療者・施設と連携を図り、地域住民の医療・保健・福祉・介護に貢献します。

◎職員の資質の向上

職員一同が相互に協力・連携を図り、医療の安全性と医療水準の向上に積極的に取り組み、日々研鑽に励みます。

◎働きやすい職場環境

病院職員が誇りをもち、やりがいをもって働き続けられる職場づくりに努めます。

◎健全経営

効率的な経営管理を行い、自立した健全経営に努めます。

湖西市病院事業管理者 杉浦 良樹

CONTENTS

02. 湖西市病院事業管理者が就任しました
看護学生のためのインターンシップのお知らせ
03. 平成31年4月採用の看護師(常勤職員)募集
マンモグラフィーは女性技師が撮影しています
04. CT検査とMRI検査について
06. 言語聴覚士の仕事について
08. 病院まつりのお知らせ

湖西市病院事業管理者が就任しました

平成29年12月1日から湖西市病院事業管理者を拝命いたしました杉浦良樹^{すぎうらよしき}と申します。市立湖西病院は、昭和31年に開設されて以来60年の歴史がある病院です。今回その舵取り役である病院事業管理者を拝命したことは、大変光栄であると同時に重責であることから身の引き締まる思いです。

市立湖西病院は、思いやりをもった医療を行い、皆様から信頼される病院を目指すことで地域社会に貢献する「信頼」と「貢献」を理念としています。市民の皆様が病気やけがをされたとき、暮らしなれたこの地で安心して治療や相談が受けられることが何よりも重要な責務と思っております。

現在は様々な事情からご不便をおかけしていることもあるかと思いますが、課題についてはしっかりと把握して、改善に最善の努力をする所存です。また、市民の皆様の病院として、寄り添い、慕われる病院を目指して、誠心誠意努めてまいりますので、何とぞよろしくお願いいたします。



3月23日(金)

看護学生のための

インターンシップ

「市立湖西病院に就職を考えている」
「どんな看護を行っているのか知りたい」
と
思っている看護学生の方に、
「インターンシップ」を開催します。
体験研修では、看護の実情を知り、
雰囲気を感じ、就職の適正が確認できます。
多くの方の参加をお待ちしています。

【体験内容】

1. 病棟体験
2. 院内見学
3. 座談会

【予定プログラム】

- 8:30 ~ 受け付け開始
9:00 ~ オリエンテーション
病院概要
(福利厚生について)
看護体験
懇話会
16:00 終了

【持ち物】

- ・実習用白衣
- ・ナースシューズ

【その他】

- ・良好な健康状態でおこし下さい。
- ・昼食は、病院食体験のため当院で準備します。

お問い合わせ先

〒431-0431
湖西市鷺津 2259-1
TEL : 053-576-1231

市立湖西病院

看護部長 山本千秋
(月～金 8:15～17:00)

平成 31 年 4 月採用の看護師（常勤職員）募集

・ 受験資格

看護師免許取得者 又は 平成 31 年 3 月末日までに行われる試験により看護師免許取得見込みの者

・ 試験日及び試験の方法

【1次募集】日時：平成 30 年 4 月 21 日（土） 【2次募集】日時：平成 30 年 5 月 19 日（土）
会場：市立湖西病院 2階 講堂（湖西市鷺津 2259 番地の1）

時 間	試験種目	内 容
9:00 ～ 10:00	作文試験	職務の遂行に必要な識見、判断力、表現力など作文能力について
10:10 ～ ※ 1 人 20 分程度	口述試験	人物について

・ 受付期間

【1次募集】受付期限：4月2日（月）必着

【2次募集】受付期間：平成 30 年 4 月 3 日（火）～5月7日（月） 締切：5月7日（月）必着
〔土曜日、日曜日及び祝日を除く〕

受 付 時 間：午前 8 時 15 分 から 午後 5 時 00 分まで

提出先・送付先：〒 431-0431 湖西市鷺津 2259 番地の 1
市立湖西病院 管理課 担当：柴田

申込方法や提出書類については、病院ウェブサイト

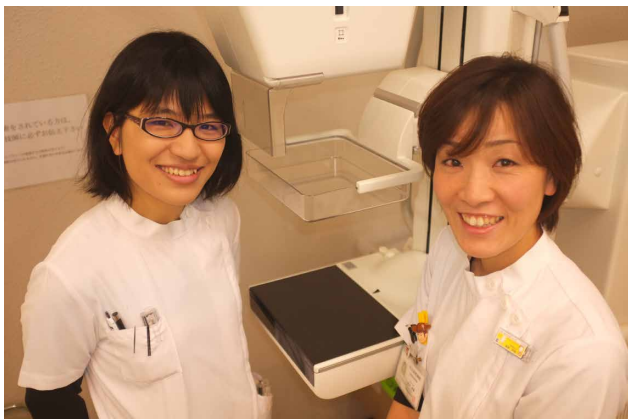
(https://www.hospital.kosai.shizuoka.jp/jo95p9wue-1048/#_1048) を参照してください。

マンモグラフィーは私達（女性技師）が撮影しています。

マンモグラフィーで何がわかるのか？

乳がんは、女性には最も多い「がん」で、16人に1人が生涯で乳がんに罹患するといわれています。乳がんは、早期に治療すれば完治する確率は高く、そのためには早期発見が大切です。

マンモグラフィーでは、腫瘍の有無、大きさや形、「石灰化」の有無などがわかります。石灰化とは、乳腺の中に存在するカルシウムの沈着物のことで、乳房にはさまざまな石灰化が見られることがあります。石灰化の約7割は良性ですので心配することはありませんが、乳がん細胞の一部やがん細胞の周囲の壊死によって石灰化が起こることもあります。乳がんの約半数は石灰化しますので、マンモグラフィー検査を受けることで、触診では発見できない5mmくらいの小さいがんも発見できます。



右：野末美香（技師歴 16 年）

健診マンモグラフィー認定診療放射線技師

「乳がんは早期発見が大切です。家事、育児、仕事など、忙しい毎日だと思いますが、少しでも自分の健康のために時間を使ってみませんか？怖がらずに検診を受けてみて下さい。」

左：三ツ矢英里（技師歴 2 年）

健診マンモグラフィー認定診療放射線技師

「乳がんは誰でもなる可能性がある身近ながんです。2年に1度定期的に検診を受けることをお勧めします。」

CT検査とMRI検査について

放射線科 診療放射線技師 野末 美香

<はじめに>

CT検査と、MRI検査。この2つの検査は、なんとなく似たイメージがあるものの、その違いについてご存じない方も多いのではないのでしょうか？どちらも、トンネル型の機械の中に入って身体の断層を見る検査ではありますが、その原理は全く異なるものです。今回は、2つの検査の撮影方法の違い、メリット、デメリット、また、どんな病気に対して行うのかを説明します。

<CTの特徴>

CT検査は、人体にX線（レントゲン）をいろいろな方向から照射し、人体を通過してきたX線をコンピューターで解析して画像にする検査です。

メリットとして、

- ・骨や肺など、水分が少ない箇所の画像診断に有効。
- ・検査にかかる時間が短い（頭部のみで5分）。
- ・広い範囲の検査が可能（頭から足先まで一度に撮影ができる）。

デメリットとして、

- ・放射線を使うため、被ばくをする。
- ・正常組織と病変のコントラストがMRIに劣る。
- ・血管を調べるためには造影剤が必要となる。

といったことがあげられます。



<MRIの特徴>

MRI検査は、巨大な磁石の中に入り、磁場と電波を使い体内の水分（水素原子）を画像にする検査です。

メリットとして、

- ・脳や筋肉など水分の多い箇所の画像診断に有効。
- ・放射線被ばくがないので、小児や人間ドックなどでも安心。
- ・正常組織と病変のコントラストに優れる。
- ・造影剤を使わなくても、血流情報を得て血管の撮影を行うことができる。

デメリットとして

- ・検査時間が長い（全身で約30分前後）。
- ・一度に検査出来る範囲が狭い。
- ・ペースメーカーなど、金属が体内にある人は（原則）検査が出来ない。
- ・閉所恐怖症の人や動いてしまう人は検査が難しい。

といったことがあげられます。



<CTとMRIの使い分け>

CTとMRIは、撮影技術が異なるため、撮影する部位や病気により使い分けています。MRIは水分を多く含む臓器を撮影するのに向いていますが、骨や肺には向いていません。反対に、CTは骨や肺を得意としています。それぞれの検査の向いている部位、病気をあげてみました（表1）。

▼表1

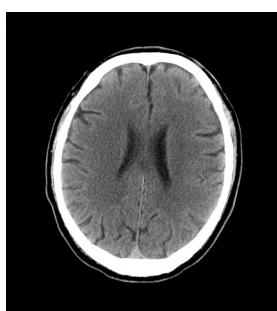
CTに向いているもの（一例）	MRIに向いているもの（一例）
骨	脳梗塞
歯	脳動脈瘤
脳出血	脊椎（椎間板ヘルニア）
肺炎、胸水、肺癌	靱帯、軟骨
腸閉塞、腸炎など腸管の病気	子宮、卵巣
尿路結石	前立腺
外傷後の全身スクリーニング	血管

実際の画像で比べてみます。画像1と画像2は同じ患者様の頭部の写真です。脳梗塞が疑われたため最初にCTで撮影しましたが、CT画像上では特に異常が認められませんでした（画像1）。次に、MRIで撮影してみると、白い点が多数認められ、脳梗塞を発症していることがわかりました（画像2）。MRIの拡散強調と呼ばれる撮影方法は、CTではわからない急性期の脳梗塞を診断するのに適しています。

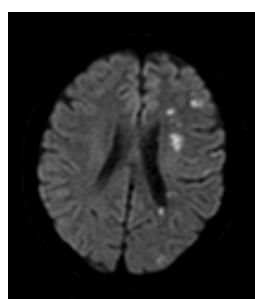
画像3は、頭部のCT画像です。中心の白くなっているところは、脳出血をおこしているところです。5分ほどの検査で診断ができ、すぐに次の治療に移ることができました。このようにCT検査は、「出血」の疾患に強い検査と言えます。

症状がある場合、疑われる病気や部位に応じて、医師の判断で使い分けをします。ただし日本の場合、CT装置の方がはるかに普及しており、また、短時間で検査が行えることもあり、まずはCTで検査して、必要があればMRIで撮影をしています。

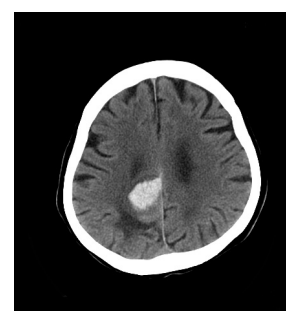
CT検査とMRI検査それぞれの特徴を活かし、適切な検査をすることによって、早く診断ができ、適切な治療を開始することが出来ます。



▲画像1 CT画像



▲画像2 MRI画像
(拡散強調画像)



▲画像3 CT画像

言語聴覚士の仕事について

リハビリテーション技術室 言語聴覚士 柄澤 秀毅

市立湖西病院にはリハビリテーション科があります。その中に言語聴覚士という職種があります。今回は言語聴覚士の仕事や訓練についてお話ししたいと思います。

言語聴覚士が行う訓練には主に①言語訓練（聴く・話す・読む・書く訓練）と②嚥下^{えんげ}訓練（食べる訓練）があります。訓練は言語聴覚士の判断で行うのではなく、医師の指示が必要になります。

①言語訓練について

対象は小児から成人まで幅広く行っています。言語訓練の対象になる小児の場合は主に言葉の発達がゆっくりしていることが考えられます。保護者からの具体的な訴えとしましては、言葉をなかなか話さない、こちらの言っている事を理解していない、発音が気になる等が多いです。訓練内容はお子さんの言葉の発達の度合いによって異なります。おもちゃや物のやり取りをしたり、形や色を区別することから始めることもあります。また、考えて話をしたり、話を聞く練習をすることもあります。訓練までの流れとしましては、言葉の発達はお子さんの全体的な発達や行動と関係しますので、まずは小児科を受診していただきます。その後、医師から言語訓練が必要と判断された場合、訓練を行うことができます。当院の小児科の場合は1人の常勤医師と2人の非常勤医師（小児神経外来）でお子さんの発達や経過をみていきます。常勤医師は訓練前の問診と定期的な診察を行ってくれます。非常勤医師も定期的な診察を行っています。当院の言語訓練の割合は8割以上が小児を対象としたものになっています。したがって小児科がなければ訓練を行うことは難しいです。どの病院にも小児科があるわけではありません。そのような意味では小児を対象とした言語訓練は当院がやるべき役割の1つとして位置付けています。



成人の場合は脳梗塞や脳出血などの疾患により、言葉がうまく話せない、相手の言っていることがわからない、呂律が回らない等に対する訓練を行っています。成人の場合も小児の時と同様に医師からの訓練指示が必要になります。外来の場合は総合内科や脳神経外科からの指示が多いです。入院に関しては循環器内科や内科からの指示が中心です。言語訓練を開始する前にはこちらで言葉に関する検査を行うこともあります。その検査結果をもとにして、訓練内容や頻度、目標を決めていきます。成人の場合、既に平仮名や漢字を読んだり書いたりすることを習得していますので、話す訓練だけでなく、読み書きの訓練を行うこともあります。

②嚥下訓練について

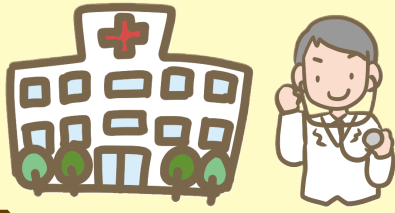
対象は脳梗塞や脳出血で入院している患者様が中心となります。このような疾患では麻痺により食べ物や飲み物が飲み込みにくくなったり、むせやすくなったりします。訓練は医師による指示があってから開始されます。嚥下訓練には食べ物を使わない訓練（間接訓練）と、実際に食べ物を使った訓練（直接訓練）があります。また、訓練だけではなく、食事開始時に食べ方や食事介助の指導をしたり、医師や栄養士と食事形態や食事量の相談をすることもあります。嚥下訓練は言語聴覚士の仕事ではありますが、先ほどの言語訓練とは異なる部分があります。1つは患者様の命に関わることです。いわゆる誤嚥（^{ごえん}食べ物や飲み物が食道ではなく、気管や肺に誤って入ってしまうこと）です。誤嚥は発熱や肺炎（誤嚥性肺炎）を起こすこともあります。食べ物を使った訓練や食事開始時は誤嚥のリスクを減らすようにとても気を遣います。

もう1つは医師だけではなく、看護師や看護助手、栄養士など多職種との協力や連携を必要とすることです。当然ですが医師は患者様の全身管理を行います。病気の悪化を防いだり、合併症を起こさないようにして少しでも訓練しやすい状態にしてもらっています。痰が多い患者様の場合は看護師に痰の吸引をしてもらうこともあります。また、状態が落ち着いて安定して食べられるようになった患者様には看護師や看護助手に食事の介助をお願いすることもあります。患者様の状態によっては口から食べられるようにならない方も実際にいらっしゃいますが、訓練をして食べられるようになることは言語聴覚士として大変うれしいことです。

以上、簡単ですが言語聴覚士の仕事についてお話をさせていただきました。言語聴覚士という名前をあまり聞いたことがない方にも、これを機に知っていただけるとうれしく思います。

病院まつり

平成30年3月10日(土)
13:00~15:30



- 管理者挨拶 13:00~13:05 1階中央ホール
- 和太鼓演奏 13:05~13:25 1階中央ホール
- 講演会 13:30~14:15 2階講堂
「動脈硬化と心臓病」 副院長代行 加藤 秀樹

1 階

ちびっこなりきりドクター・ナース

参加
自由

13:30~15:30 会場:眼科外来

医師や看護師の白衣を着て、記念撮影ができます。また、実際に医師が使用する聴診器を使って、体中の音がどのように聞こえているのかを体験することも出来ます。カメラなどの撮影機器をご持参ください。

肺年齢測定

先着
30名

14:15~15:30 会場:中央ホール

スパイロメトリーにより、1秒量を測定し肺年齢を算出することによって、呼吸器疾患に対する予防と治療の重要性を理解していただけます。

ロコモチャレンジ

先着
25名

14:15~15:30 会場:中央ホール

ロコモは、筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器のいずれか、あるいは複数に障害が起こり、「立つ」「歩く」といった機能が低下している状態をいいます。ロコモチャレンジでは、あなたの「ロコモ度」を調べて、ロコモを予防し、健康寿命を延ばすことを目的としています。



画像診断機器見学体験ツアー

先着
60名

14:15~15:30 会場:放射線科

当院が保有している画像診断機器をツアー方式で体感していただくことによって、医療画像に対する理解と興味を持っていただけます。(昨年よりも内容もグレードアップ)当院の機器を「診て」・「聴いて」・「感じて」体験していただけます。

軟こう作り体験

先着
30名

14:15~15:30 会場:中央ホール

薬剤師の案内により、リップやハンドクリームとして使える軟こうを処方薬の様に作る体験を実施いたします。



認知症コーナー

参加
自由

14:15~15:30 会場:中央ホール

認知症に関する相談や予防体操を行います。



2 階

血管年齢・骨密度測定

先着
80名

14:15~15:30 会場:中央ホール

★骨密度測定は素足で行いますのでご注意ください。
測定器を用いて、血管の弾力性年齢や骨密度を測定します。

肌年齢測定

先着
30名

14:15~15:30 会場:中央ホール

測定器を用いて、肌の状態を測定します。

体成分分析装置

先着
30名

14:15~15:30 会場:中央ホール

★体成分分析は素足で行いますのでご注意ください。
測定器を用いて、体水分量や基礎代謝量などの体成分を測定します。



※当日 12:30 から正面玄関前で整理券を配布します。

【健診センターからのお願い】

健診センターへの電話が大変込み合っております。
予約のお電話は平日 13:00~16:30の間におかけください。

☎ 053-576-1232

URL◎https://www.hospital.kosai.shizuoka.jp/
E-mail◎info@hospital.kosai.shizuoka.jp